

類題

1 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

ミルじいさんはまずしい船乗りでした。若いときからつぎつぎに外国の旅をつづけてきましたので、もういまではたいがいの国は知っているのです。ところがただ一つ日本を知らなかったのです。いつもインドを通過して支那へやってくるじいさんの船は、上海で用をすますと、そこから故郷のフランスのほうへかえって行ってしまふのです。

① 日本へ行ってみたい。 ② もう船乗りをやめてもいい。 ③ じいさんは長いあいだ、海のむこうにある桜のさく小さな島国を、絵のように美しく目にうかべながら、心につぶやくのでした。

このじいさんが、ある日船長から、こんどの航海には日本までいくことになった、と聞かされたときのよろこびようたらありませんでした。

「セルゲイ、おじいさんはね、日本へいくんだよ、日本へ。おまえには、なにをおみやげに買ってきてやろうね。」

③ じいさんは、その晩家へかえると、まこのセルゲイをつかまえて、よっぱらいのようにいくどもいくどもいうのでした。

「ぼく、大将の着た赤いよろいがほしいなあ、かぶとに龍のとまった。」
セルゲイはいいました。いつか絵本で、日本の大将が、まえだてのついたかぶととおどしのよろいを着て、戦争にいくいさましい姿を見たことがあったからです。

「よし、よし。」
じいさんはにこにこしていました。

ミルじいさんは、船が長い波の上の旅をつづけているあいだも、毎日のように受け持ちの甲板のそうじをしながら日本の港へついた

20

15

10

問1 線①「日本へ行ってみたい」とありますが、ミルじいさんは日本をどんな国として思っていますか。「〃国」の形で、文中の〃を使つて十字で書きなさい。

問2 線②「もう船乗りをやめてもいい」とありますが、そう思うのはなぜだと考えられますか。よいものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

- ア 故郷を離れ日本にずっと住み続けたいから。
- イ 願いがかなったら思い残すことがないから。
- ウ 日本には船乗りよりもよい仕事があるから。
- エ 長い間船乗りの仕事をし続けて疲れたから。

問3 線③「よっぱらいのように」とありますが、このときのミルじいさんの気持ちとしてよいものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

- ア 口がうまく回らないほどおどろいている気持ち。
- イ おみやげを買わずにうまくごまかしたい気持ち。
- ウ 何度も同じことをいうほど大変うれしい気持ち。
- エ 思い通りにならなくて、少しもどかしい気持ち。

問4 〃にあてはまることばとしてよいものを次のうちから選

〔 〕

ときのことを考えて、。じいさんの船は、インド、支那とすぎて、やがてようようのことで日本につきました。

じいさんは、船が神戸や横浜の港にとまっているあいだじゅう、めずらしい日本の町まちを見物するために、背の高い体をすこしまえこごみにして、せつせと歩きまわりました。そして大きな百貨店で、首の動くはりの虎だとか、くちばしでかねをたたくやまがらだとか、いろんなめずらしいものを買集めて、持っていたお給金をおおかた使いはたしました。

あるこつとう屋の店先で、セルゲイのいったのにそっくりの、龍のついたかぶとと赤いよろいを見つけだしたのは船が出帆しようとする前の日でした。

「やア、セルゲイのほしがっているよろいだ。よしよし買っていつてやろう。」

じいさんは、さっそく店にはいって行って、船の中でならいだしたばかりのまずい日本語でたずねました。

「これ、いくらですか。」

「百五十円です。」

こつとう屋の主人は、じろりとじいさんのみすぼらしい服を見て、ぶあいそうに答えました。

じいさんは、百五十円と聞いて、がっかりしましたが、それでもねんのため、

「すこし、たかいです。」と、ことばをつづりつづりもうしました。45
「いくらならよろしいのですか。」

そこで、じいさんは、もういくらもはいていないが、まぐちを調べました。

(塚原健二郎『海からきた卵』)

25

び、記号で答えなさい。

ア おねをわくわくさせていました

イ 不安でしかたがありませんでした

ウ 気が遠くなるような思いがしました

エ いらいらと落ち着きませんでした

問5

——線④「百五十円です」とありますが、どんな言い方だったと考えられますか。よいものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

ア あたたく、やさしい言い方。

イ 暗く、あわれむような言い方。

ウ 強く、おどかさような言い方。

エ つめたく、そっけない言い方。

問6

——線⑤「すこし、たかいです」とありますが、このときのミルじいさんの心情としてよいものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

ア セルゲイがほしがっていたおみやげを買って行ってやれないという絶望感。

イ こつとう屋の主人はわざと高い値段をいったのにちがいないという不信感。

ウ 自分の話す日本語がきちんと伝わっていないのかもしれないという不安感。

エ もしかしたら、いくらか値段をまけてもらえるかもしれないという期待感。

〔 〕

●副詞

例題

次の文の□にあてはまることばをあとから選び、それぞれ記号で答えなさい。

- (1) 妹が□笑う。
 (2) あの国は□広い。
 (3) 君は□来なかったのか。

ア なぜ イ しくしく ウ にっこり エ たいへん

解き方

あとのことばに注意して、ふさわしいことばを選びましょう。

- (1) どのように「笑う」のか、「笑う」様子を表すことばを選びます。
 (2) どのくらい「広い」のか、「広い」程度を表すことばを選びます。
 (3) 「……か」とたずねる言い方と組み合わせる使うことばを選びます。

「なぜ・しくしく・にっこり・たいへん」のように、それだけで意味がわかることばで、形は変わらずに、どんな様子か、どれくらいの程度かを表すことばを副詞といます。

答え

- (1) ウ (2) エ (3) ア

〈副詞の三種類〉

- ・「どのように」か、動きなどの様子を表すもの。例 ふと・さっと
- ・「どのくらい」か、程度を表すもの。例 少し・とても
- ・あとの決まった言い方と組み合わせられるもの。

例 この湖はまるで海のようにだ。

そんなことはまったく知らない。

1 次の文の□にあてはまることばをあとから選び、それぞれ記号で答えなさい。

(1) 足がいたいで□歩こう。

(2) 家に帰ると気持ちが□する。

(3) 子どもが□道路に飛び出した。

(4) 道がこおって□すべる。

(5) まちの明かりが□光っている。

ア きらきら イ つるつる ウ ほっと

エ ゆっくり オ いきなり

2 次の文の□にあてはまることばをあとから選び、それぞれ記号で答えなさい。

(1) わたしは□わすれものをしてしまうことがある。

(2) □わすれものをしないように気をつけなさい。

(3) その道具は□大きいそうだ。

(4) 心配したようなことは□なかった。

ア いつも イ ほとんど ウ ときどき エ かなり

3 次の文の——線部に注意して、□にあてはまることばをあとから選び、それぞれ記号で答えなさい。

(1) 明日は□晴れるだろう。

(2) □雨がふったら出かけるのはやめよう。

(3) □本物を見てみたい。

(4) かれは□そんなところに行ったのか。

(5) □問題はないから心配いらない。

ア どうして イ もし ウ おそらく

エ まったく オ ぜひ

4 次の文の□にあてはまることばをあとから選んで書きなさい。

(1) こちらのほうが□重いようだ。

(2) 君は□ピアノが好きにちがいない。

(3) 言いたいことは□言うせいかくだ。

(4) わたしは□そんなことはしない。

(け)っして きつと はつきり やや(

漢字の学習10

線部の漢字は読みをひらがなで書き、かたかなは漢字に直しなさい。

(1) にぎやかな街を歩く。

(2) 実験がうまくいく。

(3) どこまでも続く道。

(4) 目標達成に努める。

(5) 小児科の医者。

(6) 特別にゆるされる。

(7) 栄養まんてんの食事。

(8) 兵庫県に住む。

(9) 朝飯を食べる。

(10) 無事目的地に着く。

(11) ウメの花がさく。

(12) 祖母とマゴ。

(13) スポーツクラブをやめる。

(14) ツメたい水を飲む。

(15) トクシマ県に引っこす。

(16) じゅもんをトナえる。

(17) 友人をシンヨウする。

(18) カイギを開く。

(19) 大きなキカイで工事する。

(20) ひながスタつ。